



発行 福島東高等学校同窓会
 住所 福島市浜田町12-21 (024) 531-1551
 発行人 尾形幸 先生校局刷
 題字 三浦賢一 高等事務
 編集 福島東同窓会 妻印
 印刷 福同吾

熱

福島東高等学校同窓会会長

尾形 幸 男



今年も暑い夏が終わりました。そんな中インターハイに駒を進めたのは陸上競技部(女子走高跳)、男子ハンドボール部、男子硬式テニス部の三競技です。特にハンドボールと硬式テニスは初出場というところで、新しい歴史を刻んでくれました。やはり、県内で優勝または東北大会で入賞しなければインターハイの切符を手に入れることはできないのですから、あらためて各選手、顧問、コーチの方々の弛まぬ努力には頭が下がる思いです。

先日、世界陸上大阪大会(八

月二十五日、九月二日)が開催されましたが、残念ながら日本選手の不振が目立つ結果になりました。地元であるがゆえの重圧と、暑さ対策が万全ではなかったという見方があります。また、先日の新聞にスポーツジャーナリストの二宮清純(にのみや・せいじゅん)氏の記事が載っていました。昨年ドイツワールドカップ(サッカー)に取材に行った時、ある名門クラブの育成部長に「なぜ日本のフオワードは点が取れないのか」聞いたそうです。(九十八年のフランス大会で三戦全敗した日本は、五十五本のシュートを放ちながら決まったのは中山選手の本一だけ。これはシュートの決定率が世界最低(三十二ヶ国中)であり、枠に飛び確率も二〇%で世界最低だったそうです)その答えは一言「フェアルク

ト(狂気)」と言われたそうです。そのくらいの鬼気迫る気持ちがないと点は取れないということだとその記事で話していました。スポーツでは、よく体力と技術だけでは勝てない。それ以外に必要なのは「個の強さ」と言われて打開していくか。つまり、狂気や執着心、執念といった精神力であるとも言われています。

これは、スポーツに限ったことではないと思います。我々が日々の仕事を充実したものにしていくなかには、通じる部分があるのではないでしょうか?今まで積み重ねてきた年月の中で様々な経験を繰り返して、プロとしてのスキルを高めてきているはず。しかし、大きな問題に直面したとき、最後は「個の強さ」でどうやって打開していくかも重要な要素になってくるのだと思います。

そこで「個の強さ」というのはどうしたら身につくのだろうか?という素朴な疑問が生じました。そんな中、サントリーラゲビト部「サン・ゴリアス」監督の清宮克幸(きよみや・かつゆき)氏の話思い出しました。清宮監督は、低迷していた母校である早稲田

大学を大学日本一に三度導き、昨年は古巣である社会人チームサントリーをトップリーグで準優勝に導きました。短期間で、ほぼ同じメンバーにもかかわらず強い組織に生まれ変わらせた最大の理由を清宮氏は「熱」と表現しました。それは、早稲田の監督時代ケガをした主力選手が監督指令に背いて練習に参加したので、彼はそれを咎めたそうです。すると足をひきすった選手は泣きながら「清宮さん、一〇〇%以上の力を出せないで勝てると思ってるんですか?今日、一二〇%以上の力を出せないようでは勝てない。そう思わないんですか?」とグラウンドで初めて選手に反抗されたそうです。このような発言が出るのは、本気で勝ちたいと思っていたからであり、「この熱さがあったからチームが変わることができた」と気づかされた。自身の考えが大きく変わった」と言っていたのです。何かを成し遂げるためには個人の「熱」が自分自身を前へ進めることができ、人を動かすことができる「力」に変わるのだと感じました。

一期生である我々は四十歳を過ぎました。大きな責任と判断を求められる状況も多くなっています。後輩達の頑張りにも励まされながら、我々も「熱」を忘れることなく戦っていかなければいけないでしょう。歳を重ねるといふのは、いろんなことをあきらめることに慣れるのではないはず

です。落ち込んだときに、前へ進むことが困難になったときにこそ、たくさん汗を自然に流せる高校生達のように、自分の積み重ねてきた力を信じられるだけの「熱」を常に感じることを忘れないようにしたいものです。

現在同窓会は、部活動、同窓会を通じた在校生支援の充実を図り、バックアップしていくという方向になっています。しかし、その後輩達から我々同窓生も多くの目に見えない力で励まされているんだと、感じさせられることが多々あります。同窓生の皆さん、この会報を通じて、東高校で学んだ三年間を思い出したり、在校生の頑張りを感じたりする中で、それぞれが何かを考へるきっかけにしたいだければ幸いです。

また、何度もこの紙面を通して皆様方にお知らせしておりますが、「東高応援基金」の件です。これまでの積立金を崩さずに在校生支援活動を維持するために、より多くの同窓生の賛同が今まで以上に必要になってきます。どうか、この基金の趣旨を御理解いただき、御賛同願えればと切に願つ次第であります。

最後に、今回の第四号発刊にあたりましては、多くの方々から執筆等、御協力をいただいたお礼です。これも、東高と同窓会の更なる発展に期待をしていただいていっているものと真摯に受け止め、活動を盛り上げていきたいと思つております。

今日は 明日の歴史

福島東高等学校長 深澤陽一



同窓生の皆様にはご健勝で過ごしのことと思います。四月に二十八期生が入学いたしました。本校は男子校として十五年その後、共学校として十三年目になります。地域に信頼される高校として、毎日の歩みをすすめているところです。三月の二十五期生の卒業によって、同窓生は八、八七一名となりました。何度もこの会報に書いたのですが、私は創設の頃に四年、そして出戻りで校長として五年本校に勤務することになりました。私が若い教員の頃、多くの先生方と東高の将来を語り合ったその姿が、今、眼前にあります。本当にいい学校になったなと、しみじみと感じています。本校のテーマはこの二十八年間変わらず文武両道です。文武両道の文は勉強です。高校に入学してきた目的は、自分の進路目標の達成にあります。

目標の達成率を国立大学合格で見ると次のようになります。(本校は国立大学への志望者が全学年で八五%程度いますので、国立大学合格者を、ここでは進学達成の指標とします。数値は現役の国立大学合格者延べ数÷卒業者数、複数合格者が少数います。数値は五年間の平均値です。)

一〇五期生二五%、六〇期生二二%、一〇一五期生二五%、一六〇期生三六%、二一〇期生四六%となっており、特に共学化を境に割合が変化し、最近の五年間を見ると、半数近くの生徒が国立大学に合格するという成果をあげています。進学校として県内でも高い達成率を誇る高校の一つとなりました。

文武両道の武は部活動です。八月に佐賀県で開催されたインターハイ全国大会に、ハンドボール部、男子テニス部、陸上競技部が出場しました。ハンドボール、テニスは初出場です。陸上競技は連続の出場です。三つの部とも精一杯の活躍をしたのですが、全国の壁は厚く、残念な

から初戦で敗退いたしました。六月には、ハンドボール県大会の決勝戦を三年生全員で応援しました。無敵の学法石川高を相手に、終了間際に、奇跡の逆転勝ちという感動を私たちに与えてくれました。

普通科のしかも進学校で、このように複数の団体種目が全国大会に出場するところは他にありません。数年前には、サッカーの福島東といわれていましたが、多くの運動部が福島県を代表する力を身につけてきていることをとてもうれしく思っています。

文武両道を実践することは、同窓生の皆様にも経験があるように、生やさしいものではありません。厳しい状況の中でも、自分の可能性を信じて頑張る生徒がいます。土日も、家庭も顧みず、指導をしている教員の力があります。毎日の弁当づくりを始めとする、家族の支えがあります。これらのことは、本校創設以来行われてきたことです。私は、近年のこの成果は、同窓会の支援が大きいのだと思っています。

同窓の教員が増えたことを契機として、本校同窓会係が役員の皆様との協議を重ね、いくつかの新しい取り組みを実践してきました。

四年前から始めた、本校の総

合学習「さまざまな職業人に聞く」では、多くの同窓生に講師をお願いし、高校での体験を含め、職業への想いをお話しいただいています。全講師にしろ同窓生の割合は、三三% 七二% 六〇% 五六%となっており、四年間で延べ四十九名の方にお願いました。これは全講師の五九%になります。お忙しいところに、ボランティアで後輩のために話しをされている姿を、多く拝見させていただきました。

平成十七年度から、東高応援基金を開設し、本校の部活動を継続的に支援していただいています。運動用具やユニフォーム、演奏会補助など、部活動にとつて有効な支援をたくさんいただいていますし、全国大会出場部には、会長さんから直接激励金をいただきました。緊縮財政の時であり、大変ありがたく思っ

います。

私本校に来た五年前は、同窓会の活動の姿があまり見えない状況でした。現在は、経済的、人的な支援を含めて、先輩である皆さんの姿が、熱意が、言葉が、生徒に直接見える形になってきました。校長として、また創設期に本校に在職していた者として、同窓会の活躍を本当にうれしく思っています。数年後には、創立三十周年を迎えます。同窓生の姿が大きく見える取り組みを期待しています。

皆さんが、明日の歴史の創造のために、高校生のあのときの毎日を、真摯に生きてきた姿が、現在も後輩にしっかりと受け継がれています。東高の生徒は、校歌に歌われるように、明日の歴史のために、今日を、精一杯努力しています。

** ご注意下さい! **

同窓会事務局を名乗る電話が同窓生の自宅にかかってくるという苦情が学校に寄せられることがあります。同窓生の携帯電話の番号や現住所を聞くことが多いようです。事務局では一切このような電話をしておりませんので注意して下さい。なお、このような場合、「東高に確認してみます」と対応して下さい。

同窓会からの連絡は郵送です。電話等による問い合わせは原則的にはしません。どうしても電話連絡が必要な場合は、東高あてに掛け直してもらっています。

東高の電話番号は
024-531-1551 です。

福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会 員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。

[役 員]
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会 長 1 名
2. 副会長 4 名
3. 理 事 若干名
4. 監 事 3 名
5. 幹 事 若干名
第6条 役員は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。

第7条 役員は幹事の中から会長が任命する。
第8条 役員は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]
第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

[総 会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事と構成される役員会に委任することができる。

[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会 計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。
第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。
第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附 則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。
この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成18年度 歳入歳出決算書

歳入金額 3,707,825円
歳出金額 3,505,670円
差引残額 202,155円

1. 収入の部 ▲は減少 単位：円

Table with 6 columns: 項目, 当初予算額, 繰入額, 現計予算額, 決算額, 増減, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会積立金, 東高応援基金, 合計.

2. 歳出の部

Table with 6 columns: 項目(科目), 当初予算額, 流用額, 現計予算額, 決算額, 残額, 摘要. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品, 広告費, 会報費, 印刷費, 通信費, 会報輸送費, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援事業, 公開文化祭後援費, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

平成19年度 歳入歳出予算書

歳入金額 2,721,000円
歳出金額 2,721,000円
差引残額 0円

1. 収入の部 ▲は減少 単位：円

Table with 5 columns: 項目, 19年度予算額, 18年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会積立金, 東高応援基金, 合計.

2. 支出の部

Table with 5 columns: 項目(科目), 19年度予算額, 18年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品, 広告費, 会報費, 印刷費, 通信費, 会報輸送費, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援事業, 公開文化祭後援費, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

「東高応援基金」 協賛者名

()は卒業期

○「東高応援基金」について

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙にてお願いいたします。その際、おわかりになっていけば、卒業年度もしくは何期かを記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

立花純孝(9)・加藤和宏(1)・赤間力(18)・板橋孝行(8)・小川洋太郎(1)・落合範文(1)・木村浩一(1)・西山尚利(1)・尾形幸男(1)・橋内重康(1)・仙浪泰明(1)・高橋賢次

- (1) 田中昇(1)・菊田英俊(1)・佐藤武士(1)・高橋宏昌(1)・斎藤裕樹(1)・田中良典(1)・菊池浩一(1)・服部忠彦(1)・岡田正孝(1)・久能靖(1)・佐藤幸司(1)・八城公士(1)・今野充宏(2)・斎藤正機(2)・秋葉直樹(2)・阿部真人(2)・小原陸弘(2)・相馬伸介(2)・酒井祐治(2)・真柴毅(2)・阿部浩行(2)・尾形典良(3)・大内則和(3)・蒲倉達也(3)・紺野信幸(3)・佐々木晋一(3)・山田昌信(3)・遠藤博(3)・岡田正明(3)・高根功幸(3)・寺島健吾(3)・西條正美(3)・堀江孝晴(3)・室佑治(3)・泉田太郎(3)・齋藤文孝(3)・松本重明(4)・佐藤真一(4)・佐藤剛志(4)・古関邦彦(4)・高橋勝弘(4)・遠藤敦(5)・高橋正博(5)・室井克典(5)・渡辺幹男(5)・泉康夫(5)・小竹智行(5)・菅野浩行(5)・立谷保(5)・手塚健一(5)・星秀明(5)・安斎儀幸(5)・太斎克彦(5)・大槻智朗(5)・渡辺裕哉(5)・遠藤弘一(5)・山岸淳一(5)・杵澤敬(6)・稲場哲郎(6)・菅野英幸(6)・滝本裕彦(6)・山川毅(6)・相澤慎一(6)・菊地英樹(6)・小川慎(6)・夏目邦明(6)・山岸竜大(7)・安彦透(7)・大槻勉(7)・角田純也(7)・岡崎道浩(7)・川名努(7)・久保聡(7)・木船太一(7)・遠藤真也(7)・河原慎治(8)・山岸徹(8)・斎藤力(8)・東城幸治(8)・関康徳(9)・大槻進也(9)・佐藤和彦(9)・篠木明朗(9)・阿部晃広(9)・六戸博昭(9)・出羽仁(9)・六戸哲也(10)・和田範道(10)・

- 内山雄史(10)・小雀健一(10)・氏家賢(10)・佐藤宗孝(10)・加藤芳史(10)・市川清人(10)・三浦和幸(10)・五十嵐潤(10)・林谷市(10)・佐藤智顕(11)・浅野昇建(11)・板垣文浩(11)・歌川俊一(11)・澁木拓城(11)・須藤祐樹(11)・真柴善継(11)・宮崎康弘(11)・國分邦和(12)・佐々木博之(12)・浅野英建(12)・猿田秀和(12)・菅野真幸(12)・田村高弘(12)・武田重之(12)・伊東博行(12)・篠崎伸(12)・川勝庸史(13)・佐藤琢磨(13)・相馬秀明(13)・上遠野直人(13)・浅野忠大(13)・眞田龍一(13)・野地陽史(13)・根本和彦(13)・渡邊勝己(13)・高橋義泰(13)・寺島徹(13)・佐藤幸樹(14)・幕田秀明(14)・阿部貴仁(14)・斎藤洋二(14)・佐藤旭(14)・中木三達(14)・服部倫也(14)・松野哲郎(14)・小野賢一(14)・富永敦(14)・齋藤史隆(14)・板垣淳二(14)・服部哲也(14)・庄司真(14)・菅野孝志(14)・本田貴大(15)・梅本隆宏(15)・大竹忠統(15)・菅野元樹(15)・高濱健太郎(15)・阿部裕一(15)・河田裕明(15)・佐藤孝法(15)・山田泰広(15)・守山直樹(15)・山田俊嗣(15)・太田幸二(16)・高橋直之(16)・安倍利雄(16)・嶋原智宏(17)・紺野徹(17)・武田茂(17)・末永剛(17)・高橋智美(17)・松野大悟(17)・山本武徳(17)・伊藤文博(17)・上杉光成(17)・柴田学(17)・菊池七重(18)・幕田和枝(18)・富田浩司(18)・大槻雪乃(18)・佐藤涼平(18)・谷内雅一(18)・伊藤慎之介(18)・笠原弘毅(18)・山岸聡志(18)・齋藤貴裕(18)・塩野敏(18)・

- 小森陽子(19)・佐藤諒(19)・眞仁田祐介(19)・矢目正樹(19)・平野智与(19)・山本裕貴子(19)・片平美代子(19)・鹿野由里子(19)・高橋歩(19)・安齋寛(19)・齊藤幸平(19)・田村大信(20)・木村幸恵(20)・高田知美(20)・柳原扶美(20)・中山裕広(20)・茂木勇人(20)・古山由佳(20)・笠原敬男(20)・高野秀一郎(20)・阿部祐希(21)・熊本昇太郎(21)・後藤あゆみ(21)・齋藤奈津子(21)・齋藤広彰(21)・竹山美穂(21)・橋本学(21)・安齋早紀(21)・齊藤拓野(21)・渡邊綾沙(21)・加藤雄典(21)・河西利志子(21)・佐藤和美(21)・関根史博(21)・伊達孝浩(21)・遠藤あずさ(21)・管麻里子(21)・菊池幸世(21)・清和敬子(21)・山本拓也(21)・佐藤優(21)・眞仁田泰子(21)・大橋克哉(21)・佐藤弘明(21)・吉田幸樹(21)・小島美智子(22)・川口龍(22)・星かつみ(22)・幕田親平(22)・佐藤梨奈(22)・矢吹友紀(22)・加藤直樹(22)・坪井貴大(22)・吉田洋平(22)・菅野健(22)・山田洋輔(22)・小手森里香(22)・木村智美(22)・浅野武志(22)・千葉悠太郎(22)・安斎加奈子(23)・遠藤孝浩(23)・柳内宏太(23)・大堀信一(23)・甚野清英(23)・矢館美典(23)・古積かおる(23)・関口泉(23)・羽根田建志郎(23)・山崎雄大(23)・米田秀(23)・菅野裕樹(23)・新関拓也(23)・渡邊笑美加(23)・猪狩裕未(23)・鈴木洋介(23)・高橋政哉(23)・二階堂梨恵(23)・宮崎友哉(23)・大河内一男(23)・紺野廣知(23)・澁谷智弘(23)・伊達

- 孝典(23)・山岸浩明(23)・渡邊正人(23)・鈴木良(23)・竹中優里子(23)・本多奨(23)・茂木美穂(23)・阿部尚徳(23)・菅野慎人(23)・三浦紗央(23)・三浦大義(23)・菅野数宙(24)・菅野奈保子(24)・齋藤由里菜(24)・高野未咲(24)・長岐大(24)・長澤理恵(24)・石井恵(24)・管家慎太郎(24)・斎藤崇史(24)・佐藤麻衣(24)・杉田匠(24)・坪井大介(24)・池澤竹葉(24)・大橋祐太(24)・中野孝海(24)・林直人(24)・山田愛(24)・風間みゆき(24)・加藤悠也(24)・栗原朋子(24)・紺野奈美子(24)・佐藤香里(24)・佐藤弘亮(24)・松田ゆきえ(24)・遠藤舞(24)・小林大將(24)・齋藤裕(24)・鈴木勝博(24)・本多紗貴(24)・佐藤智貴(24)・佐野由香理(24)・橋本結(24)・渡邊泰文(24)・國分優佳(24)・紺野雄太(24)・矢口翔太(24)・阿部兼太郎(24)・奥山勤武(24)・佐藤麻人(24)・藤森良仁(24)・和田山裕美(24)・佐藤宏樹(24)・

平成十八年四月一日から平成十九年三月三十日までに取り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありまして、事務局までご一報下さい。

年度別 現役合格者 延べ人数

卒業年度	1期 S57年	2期 S58年	3期 S59年	4期 S60年	5期 S61年	6期 S62年	7期 S63年	8期 H1年
学級数 卒業生数	6 (281)	6 (265)	6 (262)	6 (283)	8 (365)	8 (361)	8 (372)	8 (376)
国公立大	72	57	78	62	93	70	103	78
私立大	160	117	144	129	199	180	225	259

卒業年度	9期 H2年	10期 H3年	11期 H4年	12期 H5年	13期 H6年	14期 H7年	15期 H8年	16期 H9年
学級数 卒業生数	9 (427)	9 (423)	9 (431)	9 (421)	9 (408)	9 (403)	8 (357)	8 (354)
国公立大	65	88	109	96	109	85	109	113
私立大	188	278	291	333	299	418	413	327

卒業年度	17期 H10年	18期 H11年	19期 H12年	20期 H13年	21期 H14年	22期 H15年	23期 H16年	24期 H17年	25期 H18年
学級数 卒業生数	9 (351)	9 (354)	9 (362)	9 (350)	9 (358)	9 (359)	8 (314)	8 (316)	8 (318)
国公立大	114	145	150	115	165	153	154	171	126
私立大	313	311	346	349	247	248	305	322	329

(表1)

大学別合格者数 (平成19・18・17年度入試)

	大学名	平成19年	平成18年	平成17年
国公立大	弘前大	0	4	1
	岩手大	1	6	7
	東北大	7	9	4
	宮城教育大	2	3	0
	秋田大	2	1	1
	山形大	13	17	10
	福島大	31	36	42
	茨城大	7	4	7
	筑波大	2	2	1
	宇都宮大	10	16	7
	群馬大	0	1	2
	埼玉大	10	8	9
	千葉大	2	4	2
	東京外語大	0	2	1
	東京学芸大	1	2	1
	東京農工大	0	1	1
	電気通信大	0	3	0
	横浜国立大	1	0	2
	新潟大	6	5	8
	上越教育大	0	1	0
金沢大	0	0	0	
静岡大	1	3	0	
岩手県立大	1	3	2	
宮城大	3	3	10	
秋田県立大	2	4	4	
会津大	5	2	4	
県立医大(看護)	4	7	7	
首都大学東京	0	1	7	
高崎経済大	8	7	4	
横浜市立大	1	3	2	
都留文科大	1	3	1	
その他	5	10	14	
計		126	171	154

	大学名	平成19年	平成18年	平成17年
私立大	東北学院大	44	37	51
	東北工業大	0	5	9
	東北福祉大	16	12	12
	東北薬科大	4	5	2
	獨協大	4	3	2
	文教大	2	6	16
	学習院大	1	1	0
	慶応大	1	0	1
	工学院大	1	7	2
	國學院大	1	1	0
	国土館大	11	5	2
	駒沢大	8	4	0
	芝浦工大	8	6	1
	成蹊大	3	0	2
	専修大	5	2	4
	大東文化大	10	11	2
	拓殖大	1	2	0
	中央大	4	7	4
	東海大	3	7	10
	東京電機大	2	1	0
	東京農業大	10	5	4
	東京理科大	3	7	3
	東洋大	12	6	5
	日本大	20	14	19
	法政大	10	13	6
	武蔵大	3	1	1
	明治大	8	10	5
	立教大	1	2	3
	早稲田大	0	2	2
	神奈川大	14	22	5
	立命館大	1	1	0
	その他	118	117	132
計		329	322	305

進路



進路指導主事 味原 正美

例年通り表一に国公立大学の現役合格者数を載せました。昨年度は卒業生二五期生は、入試制度は変化する中、推薦・AO入試での国公立大学の合格者が二五名と昨年の四倍以上の合格者を出し後輩に新たに進むべき道を示してくれたと思います。表二は大学別の合格者を載せましたが、地元福島大学が例年

以上の激戦で少し合格者を減らしましたが、東北大学の七名は健闘しました。私立大学は仙台の大学が多いのですが、関東も含めて全体の進学状況を示す大学等進学率も目標の八〇%を三年連続で超えることができました。生徒達は「文武両道」を実践しながら「生きる力」を養って卒業していきます。先輩方から受け継いでいるこの良き伝統をこれからも続けていかなくてはならないと思っています。

現役大学等進学率…平成19年度入試(81.1%) 平成18年度入試(86.7%) 平成17年度入試(80.3%) (表2)

25期生の卒業

25期担任代表
深瀬 幸一

みなさん、

ありがとうございます

平成十九年の三月一日、二十五期生が卒業式の日を迎えたときの感慨は非常に深いものがあつた。私は、これで卒業生を三回送り出すことになるわけであるが、前の二回の卒業式は、その段階ではほとんどの生徒は進路は決定されおらず、間もなくの前期試験の合格発表やこれから行われる中期試験や後期試験にむけての対策に頭がいっぱいで、感慨に耽っている余裕などなかった。もちろん、そのような状況であることは今回も変わらないが、今回二十五期生が無事卒業できたことに深い感慨を禁じ得なかつたのは、故なきことではない。

平成十六年四月、高校生活への夢に顔を輝かせて二十五期生は入学してきた。それを迎えるのは、加藤彦彦学年主任をはじめ鋭い担任であった。加藤主任は、担任団の目標として、まず志望大学入学という生徒の希望を叶えるために精一杯の努力をすそめ、そして自己との対話、他者との対話、世界との対話をするこ

る生徒を育てることを目標としてあげられた。

一つめの目標に関しては、他の学年と変わるころのないものであるが、学年団の話し合いの中で、国公立の一般推薦をもつ一つのターゲットにしようという目標が共有された。近年の大学入試はますます多様化し、国立大学の入試も従来の前期・中期・後期という試験に比べても、一般推薦やAO入試の定員が無視できないほど拡大している現状があつた。全国的には、いち早く推薦入試やAO入試を新たなターゲットにし、一定の成果を上げている高校も少なくなつたが、本校では担任や生徒意識もまだそこにシフトしているとは言えなかつた。

一つめの目標は、やはり本校では本格的には実施されておらず、むしろ消極的な取り組みでしかなく、総合的な学習の時間」を積極的に推し進めることを通じて実現しようと考えた。「ダイアログプロジェクト」と名付けられたこの取り組みは、「さまざまな職業人に聞く」「学問入門講座」「大学ゼミに参加しよう」「沖縄学」「論点講座」など様々な新基軸を生み出しながら、加藤主任を中心として推し進められた。これらの試みを通じて、二十五期生に対して、自己や他者や世界との対話を「コーディネートしよう」としたのである。加藤主任はじめ我々は、この取り組みを

単なる大学入試向けの戦略とだけ位置づけていたのではもちろんなく、これからの長い人生をよりよく、できれば知的に生きていくための力になってくれればよいという願いがまず根本にはあるが、一方、これが一つ目の目標とは無関係な取り組みではなく、ものを考える力が、成果は必ずしも数量化されなくとも、生徒たちの内部に蓄積され、小論文や面接等の場面でそれが発揮されることを期待してのものであつた。

このような目標のもと、二十五期担任団は加藤主任を中心として、全力で生徒とともに学習活動に取り組んできた。教科の学力も、予想通りではなかつたものの、教科担任の様々な取り組みと生徒たちの努力によつて、ある程度の成果はおさめつつあつた。

一つめの目標に関しては、五月には加藤学年主任と味原進路指導主事が自ら推薦入試指導の先進校を視察し、推薦入試指導の本格的な指導にむけて体制が整いつつあつた。また、一つめの目標に関しては、「ダイアログプロジェクト」の仕上げに位置づけられていた、加藤主任を中心として取り組んだ「論点講座」の最終回が七月十二日に実施された。

ところが、七月二十一日、加藤彦彦学年主任は急逝された。我々担任団にとつても、生徒にとつても大きな柱を失つてしまつ

て途方に暮れる出来事であつた。しかし、時は待つてくれない。

大学によつては、八月に推薦入試が開始される。担任団も生徒もいつまでも悲しみに暮れているわけにはいかなかった。加藤主任が精魂傾けた仕事は、この生徒たちが志望する進路を実現することだからだ。加藤主任のかわりに深瀬が主任を引き継いだわけだが、その他の担任には心もとないう主任であつたはずだ。しかし、この難局にあつて彼らは本当に心を一つにして一生懸命に仕事をしてくれた。

事件はそれで終わらなかつた。十月には、全国の進学高校を巻き込んだ「単位未履修問題」が発覚したのである。本校も、例外ではなかつた。理科・社会の平常課外が軌道に乗り始め、難関大学の二次試験対策によつて、これからそれらの教科の得点力のアップが見込まれる時期、また、まさしく国立大学の推薦入試の指導の最中での出来事であつた。

とにかく未履修科目を急いで履修しなければ、大学進学以前に卒業できないという状況であつた。生徒にとつては寝耳に水である。当然ながら保護者のみなさんも同じである。急遽未履修科目の補習計画を作成し、生徒や保護者のみなさんに示した。それは、当然この時期取り組まなければならぬ受験対策指導を大幅に削減する案であつた。全

ての責任は学校にある。我々は生徒や保護者のみなさんに対して、この補習によつて卒業が可能であること、受験対策については、学校をあげてできること全てについて全教員が全力で取り組み、生徒を支えていくと説明した。もし、ここで自分が生徒や保護者であつたなら、憤懣やるかたなく、その感情を学校側にぶつけていたであらうと思つた。

しかし、生徒は粛々として事態に処した。そして、今でもその時のことを思い出すと、こみ上げるものがあるが、保護者のみなさんは怒りの感情を学校にぶつけるどころか、学年担任をはじめとする我々を氣遣う言葉をかけてくれた。今でも、二十五期の保護者のみなさんに対しては、本当に感謝の気持ちで一杯である。また、理科や数学、そして社会の先生方は、学年外の仕事で本来の仕事もあるはずなのに、誠心誠意三学年のために力を尽くしてくれた。同じ教員ながら、先生方に対しても感謝の気持ちである。

そつて、三月一日を迎えた。卒業式を終えた後、加藤主任のお宅に参り、春の日差しの中で穏やかに笑っている加藤主任の写真に向かつて、生徒たちの無事の卒業を報告した。今も私は生徒に対して、同僚に対して、保護者の皆さんに対して、「みなさん、ありがとうございます」といふ気持ちである。おそらくは加藤主任も同じ気持ちだと思つた。

●運動部

平成18年度
部活動報告

野球部

春季高校野球県北予選	2回戦	5	1	福島南
3回戦	5	4	4	安達
準決勝	10	6	6	二本松工
決勝	x 1	4	4	聖光学院
同県大会	1回戦	5	0	富岡
2回戦	x 4	6	6	湯本
同県北選手権	2回戦	8	5	安達
3回戦	x 7	9	5	聖光学院
全国高校野球選手権福島大会	1回戦	10	6	帝京安積
2回戦	11	1	1	聖光学院
3回戦	8	6	6	川口
4回戦	x 8	10	10	光南
秋季東北高校野球県北予選	2回戦	2	1	本宮
3回戦	x 2	9	9	福島
敗者復活戦				
代表決定戦	12	3	3	橘
同県北選手権	x 1	3	3	福島商
2回戦	12	0	0	福島南
3回戦	x 0	1	0	聖光学院
陸上競技部				
県高等学校体育大会				
県北地区予選会				
男子	総合1位			
トラック総合1位				
フィールド総合1位				
400m	2位	丹野賢人	52.12	
200m	1位	國分広樹	51.52	
100m	3位	山田修平	23.68	
	1位	齋藤宏紀	23.35	
	3位	山田修平	11.74	
	1位	齋藤宏紀	11.38	

女子	総合1位			
三段跳	2位	高橋直也	13m	43
6位	高橋直也	6m	54	75
3位	佐藤寛朗	6m	75	
走幅跳	3位	佐藤寛朗	4.61	
1年4x100mリレー	2位	猪狩裕太郎	43.42	
4x100mリレー	2位	猪狩裕太郎	16.77	
110mH	4位	國分広樹	1.58	56
800m	2位	山田修平	11.27	
100m	2位	山田修平	16.77	
男子	総合6位			
トラック総合6位				
フィールド総合3位				
走幅跳	3位	古山友希	5m	13
走高跳	1位	北村あゆみ	1m	50
4x400mリレー	1位		4.01	67
4x100mリレー	1位		49.09	
200m	2位	川口夢加	26.24	
100m	1位	川口夢加	12.72	
2位	藤沼美穂	12.46		
1位	川口夢加	25.83		
2位	藤沼美穂	25.43		
3位	八巻優香	26.24		
4x400mリレー	1位		4.01	67
4x100mリレー	1位		49.09	
砲丸投	2位	寺島 岳	11m	95
ハンマー投	3位	秋山直樹	33m	79
女子	総合2位			
トラック総合2位				
フィールド総合3位				
砲丸投	3位	佐藤寛朗	12m	22
3位	佐藤寛朗	13m	52	68
三段跳	2位	高橋直也	6m	52
2位	高橋直也	6m	52	68
走幅跳	1位	佐藤寛朗	57.88	
400mH	2位	猪狩裕太郎	1.58	49
110mH	1位	高橋典弥	16.83	

男子	総合1位			
トラック総合1位				
フィールド総合1位				
100m	1位	川口夢加	12.59	
3位	藤沼美穂	12.88		
4位	川口夢加	12.88		
1位	藤沼美穂	25.58		
3位	川口夢加	26.05		
5位	八巻優香	26.56		
4x100mリレー	1位		48.33	
走高跳	5位	北村あゆみ	1m	46
東北高等学校陸上競技大会				
男子	総合3位			
トラック総合3位				
フィールド総合3位				
100m	準決勝	山田修平	11.06	
800m	準決勝	國分広樹	5.67	
110mH	予選	猪狩裕太郎	16.68	
4x100mリレー	準決勝		42.25	
走幅跳	12位	佐藤寛朗	6m	68
三段跳	8位	高橋直也	13m	93
女子	総合3位			
トラック総合3位				
フィールド総合3位				
100m	2位	川口夢加	12.07	
5位	八巻優香	12.17		
8位	藤沼美穂	12.3		
2位	川口夢加	25.00		
5位	藤沼美穂	25.49		
4x100mリレー	1位		47.27	
走高跳	8位	北村あゆみ	1m	54
日本ジュニア陸上競技選手権				
女子	予選	川口夢加	12.7	
100m	予選	川口夢加	25.08	
200m	予選	川口夢加	54	
全国高等学校陸上競技対校選手権大会				
女子	準決勝	川口夢加	12.35	
100m	予選	八巻優香	12.73	
200m	予選	川口夢加	24.73	
4x100mリレー	準決勝		46.68	
県総合体育大会				

男子	総合1位			
トラック総合1位				
フィールド総合1位				
100m	1位	佐藤寛朗	11.37	
2位	丹治啓太	11.37		
3位	丹治啓太	11.37		
1位	齋藤宏紀	23.65		
3位	齋藤宏紀	23.65		
1位	泉 達也	58.64		
1位	高橋典弥	58.64		
4x100mリレー	1位		3.37	17
4x400mリレー	3位		17.43	34
砲丸投	1位	寺島 岳	10m	48
少年男子A砲丸投				
少年男子	1位	寺島 岳	11m	96
1位	寺島 岳	22.32		
少年男子B	200m	山田修平	22.90	
少年男子	200m	山田修平	64.24	
女子	総合3位			
トラック総合3位				
フィールド総合3位				
400m	3位	鈴木亜季子	4.14	15
4x400mリレー	2位		4.14	15
少年女子B	100mH	奥山朋世	18.35	
2位	奥山朋世	18.35		
県選手権				
男子	2位	國分広樹	1.57	52
800m	200m	山田修平	22.53	
少年男子	200m	山田修平	23.31	
5位	丹治啓太	23.31		
4x100mリレー	5位		43.36	
走幅跳	4位	佐藤寛朗	6m	78
女子	総合3位			
トラック総合3位				
フィールド総合5位				
100m	5位	川口夢加	12.02	
少年女子A	100m	川口夢加	12.02	
1位	川口夢加	12.02		
2位	藤沼美穂	12.26		
3位	八巻優香	12.49		
4x100mリレー	1位		4.08	15
4x400mリレー	4位		15.48	19
走高跳	3位	北村あゆみ	1m	50
共走高跳	1位	北村あゆみ	1m	50

男子	総合1位			
トラック総合1位				
フィールド総合1位				
100m	1位	丹治啓太	11.52	
2位	齋藤宏紀	11.57		
3位	猪狩裕太郎	11.79		
1位	丹治啓太	23.28		
2位	齋藤宏紀	23.23		
3000mSC	3位	鈴木淳文	43.74	
4x100mリレー	1位		10.16	18
砲丸投	3位	齋藤宏紀	6m	00
2位	寺島 岳	11m	81	
ハンマー投	3位	寺島 岳	25m	08
女子	総合3位			
トラック総合3位				
フィールド総合5位				
200m	3位	小林美咲	26.47	
400mH	3位	奥山朋世	72.22	
4x100mリレー	3位		4.17	90
4x400mリレー	3位		95.53	
走高跳	2位	北村あゆみ	1m	53
走幅跳	2位	古山友希	5m	09
県高等学校新人陸上競技大会				
男子	総合3位			
トラック総合3位				
フィールド総合5位				
100m	予選	國分広樹	2.01	27
800m	予選	川口夢加	12.71	
100m	予選	齋藤宏紀	48.25	
5位	藤沼美穂	第2走者		
(藤沼美穂：第2走者)				
(川口夢加：第4走者)				
国民体育大会				
少年女子A	100m	川口夢加	12.12	
準決勝	4x100mR		46.01	
5位	福島選抜	4x100mR		
(川口夢加：第3走者)				
県高等学校新人陸上競技大会				

男子個人決勝進出 藤家良輔
 女子個人 8位 廣澤由貴子
 女子団体
 準決勝リーグ
 対磐城 7
 対郡山 11 10
 対相馬東 16 13 7
 決勝リーグ
 対郡大附 13 7
 対郡山 15 14
 対福島商 9 13
 2位 東北大会出場
 春季県北大大会
 女子団体 1位
 (平!油井・西崎)
 県総体県北地区予選
 女子団体 1位
 (平!菅野・斎藤)
 県春季大会
 女子団体 5位
 県遠の選手権
 男子個人 3名出場
 女子個人 4位 西崎亮子
 東北高校体育大会
 女子団体
 予選 12位
 県総体
 遠の
 個人 10位 六戸香理
 近的
 団体 7位 福島東A
 (廣澤・松尾・油井)
 県遠の選手権
 女子団体 1位 福島東A
 女子個人 1位 佐藤成美
 新人大大会
 県北大大会
 女子団体 9位
 女子個人 2名入賞
 県大会
 男子個人
 3名出場・1名準決勝進出
 女子個人 4名出場
 決勝進出 佐藤成美
 テニス部

ジュニアテニス選手権
 ダブルス地区大会
 3月28・29日(福島市庭球場)
 18才以下
 男子 第5位
 菅野達也・坂内健人組
 第6位
 大木翔太・植木紀元組
 女子 第6位
 斎藤彰子・齋藤彩夏組
 第7位
 佐藤絢乃・松野枝里子組
 16才以下
 男子 第1位
 シングルス地区大会
 4月8・9日(福島市庭球場)
 18才以下
 男子 第3位 菅野達也
 女子 第4位 佐藤絢乃
 第6位 松野枝里子
 16才以下
 ダブルス県大会
 4月23日(福島市庭球場)
 18才以下
 女子 ベスト8
 佐藤絢乃・松野枝里子組
 ベスト16
 齋藤彰子・齋藤彩夏組
 シングルス県大会
 4月29日(富岡町庭球場他)
 18才以下
 女子 ベスト16 佐藤絢乃
 松野枝里子
 高校体育大会
 地区大会
 5月6・8日(福島市庭球場)
 男子 団体戦 第5位
 シングルス
 第4位 菅野達也
 第6位 大木翔太
 第8位 植木紀元
 ダブルス
 第6位
 菅野達也・坂内健人組
 第7位

大木翔太・植木紀元組
 第8位
 田口太郎・古山貴大組
 女子 団体戦 第3位
 シングルス
 第7位 松野枝里子
 ダブルス
 第4位
 松野枝里子・佐藤絢乃組
 第6位
 斎藤彰子・齋藤彩夏組
 県大会
 6月3・6日
 (郡山庭球場・牡丹台庭球場)
 男子
 シングルス
 ベスト16 大木翔太
 女子 団体戦 ベスト8
 県総合体育大会少年の部
 地区大会
 6月10日・12日
 (福島市庭球場)
 男子
 第3位 部シングルス
 第6位 植木紀元
 部ダブルス
 第3位
 佐藤哲也・淡路雄翔組
 女子
 部シングルス
 第8位 佐藤絢乃
 部ダブルス
 第4位
 佐藤絢乃・鈴木美怜組
 部ダブルス
 第3位
 鳴原美穂・浅和 唯組
 県大会
 7月9・10日
 (レジーナの森テニスコート)
 女子
 部シングルス
 ベスト16 佐藤絢乃
 部ダブルス
 ベスト8
 佐藤絢乃・鈴木美怜組
 県北ジュニアシングルス

8月1・2日
 (福島市庭球場・成蹊高校)
 男子シングルス
 第2位 大木翔太
 第3位 植木紀元
 第5位 田口太郎
 女子シングルス
 第7位 佐藤絢乃
 高校新人体育大会
 地区大会
 9月2・4日(福島市庭球場)
 男子 団体戦 優勝
 シングルス
 第1位 大木翔太
 第4位 古山貴大
 第5位 植木紀元
 女子 団体戦 優勝
 シングルス
 (2年連続5度目)
 第5位 佐藤絢乃
 第6位 鈴木美怜
 第9位 阿部真由美
 初の男女団体同時優勝
 県大会
 9月30・10月2日
 (会津若松総合運動公園庭球場)
 男子 団体戦 第3位
 シングルス
 第6位 大木翔太
 女子 団体戦 優勝(初)
 シングルス
 第6位 佐藤絢乃
 ベスト16 鈴木美怜
 東北大会
 10月21・22日
 (青森県新総合運動公園テニスコート)
 女子 団体戦
 予選リーグ
 対 山形東 4 1
 対 市立仙台 4 1
 決勝トーナメント
 対 盛岡四 2 3惜敗
 東北ベスト8
 県ジュニアダブルステニス選手

権
 地区大会
 12月1・2日(福島市庭球場)
 男子U18シングルス
 第4位 田口太郎
 第7位 渡邊仁哉
 ダブルス
 第4位
 大木翔太・田口太郎組
 第7位
 植木紀元・渡邊仁哉組
 女子U18シングルス
 第4位 佐藤絢乃
 第6位 鈴木美怜
 ダブルス
 第2位
 佐藤絢乃・鈴木美怜組
 第5位
 阿部真由美・鳴原美穂組
 県大会
 1月13・14日
 (いわき市平庭球場)
 ダブルス
 第4位
 佐藤絢乃・鈴木美怜組
 ベスト16
 阿部真由美・鳴原美穂組
 東北大会
 2月11・12日(シエルコム仙台)
 ダブルス
 佐藤絢乃・鈴木美怜組
 予選リーグ 1勝1敗
 コンソレーション2回戦進出
 県春季選抜ジュニアシングルス
 ステニス選手権大会
 2月3・4日
 (いわき市平庭球場)
 男子 第5位 大木翔太
 東北春季ジュニアテニス大会
 3月29・31日
 (仙台市泉総合運動場)
 大木翔太 出場
 ハンドボール部
 県高等学校体育大会
 県北大大会

平成19年度(26期生) 部活動を終えて

生徒会

僕は一年の後期に所属してから約二年間この東高校の生徒会で活動してきました。その二年間の中でも生徒会長になってからの活動は、その責任の大ききから苦勞したこともありました。しかしながら、今振り返ってみるとその一つ一つがとても貴重な経験であったと思います。

その中でも僕の記憶に一番残っているのは、やはり三年に一度の公開文化祭である「東桜祭」でした。高校の文化祭は中学のものとは違い大きな規模で行われるので一体何をどうしていけばいいのか分かりませんでした。先輩や先生方、そして同じ生徒会役員の協力のおかげで成功させることができました。この生徒会活動を通して学んだ様々なことをこれから自分に生かしていければよいと思います。(石橋 郁弥)

剣道部

私の東高で部活動はとても充実したものだ。尊敬できる先生方や頼りになる先輩達と剣道できたことは、一生の財産になったと思う。勉強との両立をとても苦しいと思ったこともあったが、両方頑張ったからこそ、これだけの達成感を感じて引退することができた。夏の暑さや合宿、冬の厳しい寒さ、そして体育館改装によって格技場が使えなくなり、他の高校へ練習に行ったこともとても良い思い出になった。そして先輩達もこれからさらに剣道

部を良くしてくれると思う。私は今、今までで経験したことのないくらい勉強をしている。課外などで帰る時間は部活をしていると変わらない。しかし、あれだけの稽古を毎日して培ったものが発揮されていると思う。先輩達のこれからの注目しつつ、志望大学を目指して頑張っている。(佐藤 直道)

社会部

二〇〇六年七月に顧問の加藤国彦先生が亡くなりました。一年の時から非常にお世話になっていただけに大きな衝撃を受けました。しかし、東桜祭での展示は当初、遅れていましたが、どうにか間に合わせる事ができました。その際もう一人の顧問である菅野正夫先生にお世話になりました。

一・二年においては、瓜生若子について調べ東桜祭において分かったことを展示しました。しかし、どちらの年においても東桜祭が終わってからはほとんど活動することができませんでした。三年においては、白バラ(第二次世界大戦時ドイツにおける抵抗組織)について調べました。宿題などで忙しかったのでそれほど調べられませんでした。新しく顧問になった力丸繁先生には色々お手伝っていただきました。(大内 宏倫)

英語同好会

私が三年間所属していた英語同好会はとても楽しい部活動でした。中でも心に残っているのはエリン先生の送別パーティです。みんなで作った料理、話したこと、そして大槻先生の料理する姿は

忘れません。それから先輩やブレント先生と過ごした時間もとても楽しかったです。英語同好会らしく英会話!といきたいところでしたが、日本語と電子辞書ばかり使ってしまった反省しています。時折、ブレント先生と私たちの会話がかい違っていたこともありましたが、そんなこともみんなで楽しく乗り切れました。私にとって英語同好会はとても居心地の良い場所でした。たくさん思い出をありがとうございました!

後輩のみなさんへ
また、ブレント先生にYMC Aを聴かせてあげてね。
(菅野 由佳)

書道部

書道部は一昨年の春、同好会を発足し、今年春、部に昇格した小さな部です。当時、赴任されたばかりの顧問、橋本先生の熱意がこの部を作りました。基本的に週一ペースで、展覧会出品を目標とした作品制作をしています。各個人のペースで活動する為、全員がそろつ事は少なかったように思われます。それでも楽しく活動する部です。

私で、発足当時からいる部員は全員卒業する事になります。長いよつで短い三年間の中で、先輩方や後輩達と細やかながら積み上げた歴史が、続いていく事を嬉しく思います。ありがとうございます。(赤戸 千恵)

女子バスケットボール部

「自信、冷静、集中」私たちがこれをモットーに日々努力してきました。チームメイトや先生、保護者などたくさんの人たちに支

えられ、辛い練習も乗り越えてきました。この三年間で得たものはとても多く、それは今後の生活にも生きるものばかりでした。先輩たちにも、部活を通してさまざまな事を学び、悔いの残らないようにしてほしいです。これからの女子バスの発展を願っています。
ばんざーい!!! (高木 知世)

サッカー部

「感謝」
僕の高校三年間は、生涯忘れることのできないような思い出がたくさん残る非常に充実したものであったと思います。その中でも部活は、高校での思い出の大部分をしめるものでした。僕達三年生は、福島県を代表する二人の指導者、齊藤勝先生、鈴木清文現監督のもとでプレーすることができ、とても幸せでした。

部活動を通して感じたことはみんなに支えられているんだなということ。遠征の時、僕達のバスを安全に運転してくださる菅野さん。チームを陰から支える達哉先生。サッカー部のために休日わざわざ学校に来てくださる今野先生。送迎や応援してくれる家族。部活をみにきてくれる先輩方。そしてマネージャーを含めて部活のみんな。三年間ありがとうございました。最後に後輩達へ。選手権めざしてがんばれ!!あと、勉強はそこそこしなさい!!が本気でいいです。(大原 優)

弓道部

時が過ぎるのは早いもので、部活を引退してからだいぶ時間が経ちました。これまでの部活動を振り返ると、楽しい事だけでなくつらい事もあったけど、今では

全体的に思い出です。

入部当初は、これから先やっていけるのかと不安になることもありました。しかし、日々の練習や合宿を通して仲間と協力することの大切さ、共に励まし合う優しさなど多くの事を学ぶことができました。最後の大会は納得のいく結果を残せなかつたけど、先輩たちがさらに上の大会を目指して頑張ってくれると信じています。

先生や先輩方にはとてもお世話になりました。頼りない部長を支えてくれた部員のみんなにも感謝しています。一・二年生は人数が多くて大変だと思いましたが協力し合っただけから頑張っていました。応援しています。(佐久間 智也)

野球部

僕は、今まで野球を通じてさまざまなことを学んだ。
・身の回りの整理整頓
・謙虚な気持ち
・あいさつをはしめとする礼儀
これらのことができれば、どんなに練習しても強くなれない。練習すること以上に大切なことはたくさんあるので、部活動を通して人間として大きく成長してほしい。(三浦 祐亮)

山岳部

山岳部では、春に雪山登山、夏に夏山合宿、冬にはスキーをしたりと、一年中活動し、山を自分の身体で体感してきました。特に、夏山合宿は、数日間山の中に籠ります。テントで生活し、一日に十数キロメートルも歩き、とてもつらい時が多々あります。ですが、山頂に登った時のすがすがしさや、山の朝のすみきつた空

気、夜空の星のまはたく様は、すばらしいものでした。また、共同生活の中で友達と協力する大切さをより感じました。

山岳は、とても大変なスポーツですが、他のものでは体感できないことが多くあります。ぜひ多くの人に、山岳に体験し、自然の大きさを、自分の身体と心で感じてほしいと思います。

(舟山 暢)

演劇部

真っ白な原稿用紙を前に、演劇部での三年間が次々と脳裏をよぎっていきます。カオスでした。四苦八苦でした。求不得苦でした。魘魅魘魘でした。死に至る病でした。自分の力量不足と情けなさ不甲斐無さに真夜中まで妻茶とランドナー。行けども行けども獣道。だめだこりゃ。

ですが、舞台に立ち役と自分が一体化したとき。同好会から部になれたとき。悩みながら書き上げた脚本を面白いと言ってくれたとき。個性的過ぎる部員が行きつ戻りつしながらも一つの作品を完成させようとしていたとき。そのとき確かに、渾沌から「きらきらしたもの」を掴むことが出来たのです。後輩の皆にもそうした、それぞれの輝きを手にして欲しいなあと思います。

そんなこんなで。(酒井 優香)

男子バドミントン部

僕は三年間この部活をやってきて本当に良かったと思います。それは、良い先輩方、良い後輩達、そして同学年の最高の仲間達に会えたからだと思います。バドミントンがあなたに楽しいと思えたのもみんなのおかげです。

部活の成績は六年間やってき

た中で一番良い成績でした。高体連の地区大会では優勝を逃しましたが、県大会ではベスト8に入ることができ、とても満足しています。

みんなには感謝することはばかりです。いつも支えてもらってばかりでした。本当にありがとう。最後に、ダブルスのパートナー!! 迷惑かけまくってごめん!! めっちゃ感謝してる!! ありがとう!!

(伊藤 真吾)

男子テニス部

引退してから早くも四カ月が過ぎようとしている。僕にとって部活は高校生活において欠かせない存在だったので学校生活が物足りない気がする。思えば今まで、こんなに一つの事に本気で取り組んだことはなかっただろう。振り返って見れば、部長として部をまとめられず、仲間との衝突があったりもした。しかし、時間が過ぎるにつれ問題も少なくなり、少しずつ部をまとめられるようになった頃、新人戦で県三位という結果だった。東北大会出場を目標としていたので出場できなくて残念ではあったけれども、少しずつ部がまとまってきているように感じた。そして、最後のインターハイの県大会で、平工業をやぶり、優勝することができ、本当に嬉しかった。

部活を引退して勉強中心の生活になった今、部活を続けてきてよかったと思つ。部活を通して仲間の大切さや精神面などを強くさせてもらいました。そして、今まで指導して下さった先生・先輩、今までもずっと一緒に練習してきた仲間と後輩。今まで本当にありがたうございました。

(三瓶 明仁)

女子バドミントン部

最後の大会を、今でも鮮明に覚えています。大好きな仲間と最後の最後までねばり強く勝負することができました。勝ち負けに関係なく、みんなと戦えたこと自体がうれしかった。終わりに見たみんなの貴重な泣き顔は忘れられません。

勝ったからこそ得られるもの、負けたからこそ得られるものがある気がしました。その時その時に自分が一番大事なことを考える力がついたと思います。高校での部活を振り返って思う率直な感想は、楽しかった。っていつことですか。尊敬できる先輩方と、頼りになる同輩と、素直な後輩と、優しい先生方に囲まれて毎日バドミントンができました。

私が部長になったことでたくさん迷惑をかけたと思いますが、私に深く関わってくれたすべての人には本当に感謝しています。

(佐藤 春香)

卓球部

部活動を引退して随分経った。部活の時は練習のない木曜日は退屈で憂鬱だった。今や部活のない木曜日のような日々が毎日訪れて、受験生となった。面白い仲間・かっこいい先輩・世話の焼ける後輩と一緒に過ごした部活動は、楽しかった。の一言に尽きる。これは先輩が教えてくれた卓球部の魅力だ。

一学年上の先輩が卒業する時に教えてくれた言葉があった。それは、「卓球部は勝ち負けとかじゃなくて、まずみんなが仲良く楽しめるものなんだ。」という言葉だった。そしてそれを目標として活動

してきた。思い上がりかもしれないがこの目標は達成できたと思つ。それは何より仲間たちのおかげだと思つ。

大会での僕達の成績、それは誇れるようなものではなかった。だが、それに向かってきた努力は、個人の財産になると思つ。

三年間の活動の中で、先輩や顧問の先生など、多くの人のお世話になってきた。本当にありがとうございませう。そして、後輩のみんな、先輩が教えてくれた目標を忘れずに、自分たちの目標に向かい頑張つて下さい。

最後に、笑い声と活気に満ちた第二体育館の思い出は、仲間あつてこそのものでした。本当にありがとう。(市島 睦生)

水泳部

僕が高校一年の時の初秋、水泳部員は自分一人になりました。その日から引退まで部長をやってきましたのですが、後輩達に窮屈な想いをさせてしまったと後悔しています。自分には大した泳力も水泳の知識もありません。なので、飛躍的に向上していく後輩の泳力に似合ったメニューを作りきれなかったかも知れません。どちらかと言えば教わるが多かった気がしますが、後輩との思い出は沢山ありますが、自分の引退試合になった県大会に泳者全員で出場できたことは、最高の思い出です。

乱文となりましたが、一緒に泳いできた後輩やお世話になった先生、先輩方、そして部を一緒に率いてきた小柳、僕が泳げたのはみんなのおかげです。ありがとうございました。

(阿部 翔一)

陸上競技部

部活を引退した今、思うことは自分にとって部活がどれだけ大きな存在だったかということです。僕が陸上部に入部した年はインターハイ県予選で男女共に総合優勝を果たした年でもありました。その時の先輩方の姿はとも大きく遠い存在に感じ、自分もあのようになりたいと強く思うたを覚えてます。

練習はとも辛く辞めたいと思つたことも何度もありました。しかしそんな時に支えてくれたのが一緒に練習してきた仲間でした。陸上は個人競技といわれますが競つ相手がいて初めて内容のある練習ができる、大会だって相手はもろろん補助員の人やその他の人達の協力があって初めて成り立ちます。決して一人で出来るスポーツではありません。今回、部長という貴重な経験をさせてもらいそのことを強く感じました。

僕はこの陸上部から本当に多くのものをもらいました。高校生活をこの部活と共に過ごせたことに感謝したいと思つます。ありがとうございました。

(佐藤 直樹)

写真部

私たちが写真部は、基本的に個人で活動している部活なので、みなさんからはあまり印象のない部活だと思われるかも知れませんが、個人的な活動だからこそ自分が納得できる場所、タイミングで最高の写真を撮ることができました。また、そのために他の部活に比べれば部員全体

での活動が極端に少ない中で、先輩方、後輩たちを含む最高の仲間たちに会うことができ、また優しい先輩、慕ってくれる後輩、部活以外の時もよく一緒にいるようになった同級生…。私が一番しつかりしなくてはならない部長という身にもかわらず、兼部をしていたせいもあり、度々部活のみんなに迷惑をかけてしまったのに、気にすることなく逆に支えてくれました。こんな私が部長としてずっと部活を続けてくれたのは、いつも笑顔で助けてくれた部活のみんなのおかげです。本当にありがとうございます。
(市川 咲良)

女子バレーボール部

部活をやっていた頃は、嫌になつたり逃げだしたくなる日がありました。でも今思うことは、本当に充実した毎日だったんだなという事です。もちろんそれは、みんながいてくれたからだと思います。みんなを笑わしてくれる愛里、意見をしっかりと語ってくれる美里、いつもニコニコな美穂、責任感の強い美紀、しっかりと努力を惜しまない彩や香、その場を和ませてくれる瑞穂、この八人に支えられ、自分は頑張ることができ、引退して改めて、みんなの部活は自分にとつてこんなに大きなものだったんだと気づきました。恥ずかしくて言えないけど、本当にみんなには感謝しています。ありがとう。
あつという間だったけど、みんなとふざけたり泣いたり笑ったりした毎日は最高でした。これからはもつと忘れずに励みとして頑張りたいです。
(手塚 亜依)

科学部

科学部のこれまでを振り返ると、初めの時はどうしていいかわからなかった。なぜなら、部員は自分ら一年生と三年生だけであり、三年生から特に活動について教えてもらえず引退したため、ほとんど活動してない状態だった。ただ、二年になり、現二年生が来てからはまとまった活動ができるようになった。その成功例が文化祭での活躍だった。
三年になると、さらに一年生が来て、研究論文を出せるまでになった。ただ、人数が増えたため、話がまとまらず、脱線することもあった。
現在の科学部は、研究論文を出したり、積極的にイベントに参加する等、発展している。これからのさらなる活躍を期待している。
(須田 達也)

ダンス同好会

「共に成長した十八カ月」
私達の代から始まり、私達と一緒に育ってきたこの同好会を引退してしまつたことを未だに受けとめられない自分がいます。自分達で一からつくりあげた同好会だからこそ、別れ難く、そう思つてしまつたのかもしれません。
この十八カ月で私を感じたことは、何事も諦めずに投げ出さないでやると、必ず最後には最高の終わりがやってくるということとです。諦めずに投げ出さないでやってきたからこそつかめる終わりだったといつた方がいいのかもわからないけれど、夢は、叶えたいと頑張る人の元にはやってくる。思つただけじゃダメなのです。だから、どうか今思っている夢を簡単に諦めないで下さい。自分がやりたい

ことをやらないと後悔するだけです。一人に一回だけ与えられた人生、後悔ばかりじゃもつたいたくないです。
(鈴木 康之)

男子バスケットボール部

中学生の頃、正直東高のバスケット部に強いついてイメージはなかった。進学校だから部活は勉強のつぎで練習もそんなにキツくないと思つてた。
だけど実際に入部したらそんなイメージは瞬間で消えた。先輩は恐いし練習はキツいし試合なんて出れるはずないくらいみんなうまかった。毎日足つってたしケガなんて何回したかわかんない。辞めようって考えたことだつてあつたけどみんながガンバツてる姿見ても自分ももう少しだけガンバツてみようかと思つた。キャプテンの次のキャプテンというプレッシャーに負けていつも通りのプレーができなかった。今までキャプテンやつてきた先輩の凄さが初めてわかつた。
結局県大会一回戦で負けた。自分達が目指してた所には遠く及ばなかつた。後悔してないなつて言つたらまるっきり嘘になる。だけどこれが現実だから受けとめなきゃいけない。
でもあそこで辞めてたらこんな気持ちにもななかつたし、この仲間と一緒にいることだつてなかつたし、応援してくれた人たちにこんなに感謝の気持ちでいっぱいになることだつてなかつた。
今思うと最後まで部活続けて良かった。自分自身がこんなに成長できたと感じるのは初めてだし、こんなにいい仲間ができたのも初めてだから。
最後に後輩達へ、来年の六月の大会はみんなで応援行くから力

ンバレよつ。
(佐藤 裕次郎)

男子バレーボール部

三年間の部活を通して学んだ事は数えきれないほどある。それは、あきらめずに、最後までやり遂げた事で実感出来たのだと思つた。
今、歯を食いしばつて頑張っている後輩達には、つらくても最後まで続けてもらいたい。いつも先生がおっしゃられていたように、三年間やり通すことに意味がある。から、頑張れ!!
そして、東高バレー部がこんないい部活になったのも、顧問の遠藤先生はじめ、先輩方や保護者の方々のおかげだと思います。今まで支えて下さつた方々、本当にありがとうございます。そしてこれからも、東高バレー部をよろしくお願ひ致します。
(遠藤 慎也)

柔道部

柔道を三年間続け、様々な事を経験した。怪我をして辛い時もあつたし、試合で負けて悔しい思いもあつた。みんなでふざけ合つた時もあつた。その中で色々な事を学んだが、部活を引退して今思うのはやはり、精神力や集中力などの、「心の強さ」が身に付いたといつことだ。それが今の受験勉強をする上で大切なものになつているし、これからの生活の中でも大切なものになつていくんだと思つた。
先生方や先輩方にもお世話になつた。技を教えていただいたり、試合の応援をしていただいたり、学ぶことは多かつた。また、一緒に喋つたりふざけ合つたりしてとても楽しかつた。
後輩達には、僕達より多くの

事を経験し、多くの事を学んで欲しい。そして、悔いが残らないような充実した生活にして欲しいと思つた。
最後に、やつぱり柔道やつて良かったなあと、心からそう思つた。
(佐藤 崇人)

女子テニス部

三年間共に部活をしてきたメンバーに今一番伝えたいのはありがとつの一語です。こんな頼りない私についてきてくれた皆、ホントに感謝してます！首痛めて首長族みたいになつてた綱乃、大会当日自転車で空中一回転した千裕、AB全開変人麻亜子、全部の枕の匂いを嗅ぐ由望、寝言を言つさくまい、いも虫をボケツトに入れてお昼寝したえび、よく物に触つてた高木、ミスすると回転する長沼、変態な香、こんな皆と、先輩を先輩と見てくれない気がする後輩(笑)との部活は辛い事もあつたけど楽しくても充実してました。
新人戦県制覇、東北大会ベスト8という結果が出せたのは団体戦のメンバーのみではなく部員皆の努力と支えがあつたからです。こんな最高のメンバーと部活ができて、本当に幸せでした。今まで本当にありがとうございます。
(鈴木 美伶)

応援委員会

今、応援団を引退して、これまでのご活躍を振り返ると、高校生活の三年間というのがいかにも短いものだったか思い知らされます。
東高に実際に入学するまで応援団の「お」の字も知らずにいた自分にとって応援歌講習は衝

撃的なものでした。十八年間の学生生活で昼休みが嫌になったのはあの時だけです。そしてついに桜梅戦の日:

この日を境に俺の人生は未知の領域へと突き進んで行くことになった。

後日、応援團へ入るため團室へ向かっただけには自分と志を共する仲間が一人。当時はまだ知る由もないがこれがこの後の三年間苦楽を共にするベストフレンドの戸田進一君がいたのだ。そしていざ團室へ入るとそこには遠目では決して高校生に見えない強面の偉大な先輩方が座っておられました。予想していた以上に優しくされ安心したのも束の間、その日から地獄のトレーニングが始まりました。躊躇は三十秒も持たず声はすぐ枯れる。ヒョッコと呼びにふさわしい出来でも先輩方は時に優しく、時に厳しく教えて下さりました。しかし充実した日々はあっという間に過ぎ去り、三年生しかない先輩は全員引退し、まだまだ未熟な自分と戸田だけが残されてしまったのです。形式上自分は一年生ながら團長となりそこから二年に及び團長生活が始まりました。秋は二人で切磋琢磨しあいながら鍛錬を重ね、時より来て下さる母校を愛してやまない多くのOBの方からも指導していただいたりとする日々を経て二人は着実に成長していききました。新年を迎えるころには新たに八巻伸明という團旗を上げるために生まれてきたような男と有能な多くの助っ人が加わり東高応援團は大きく勢力を拡大しました。

そして月日は流れ、三年の夏、初戦から「古豪」学法石川高校との試合。当然応援する側として、相手が強ければ強い程燃えてきます。

我が東高の善戦も実らず最後のバスターが目の前でOUTに。悔しさを噛みしめ頭を深々と下げ相手の校歌を聞き、最後の干渉交換へ。正直、その時何を考えてたのか覚えていません。ただ、これで最後かと思うと図らずも目から汗がこぼれてしまいました。

時代の流れなのか応援歌講習伝統の一年の教室回りができなくなり校長室へ仲間と共に直談判したのも今となっては良い思い出です。どんな時代になっても後輩には応援團らしさをつらぬいて欲しいと思います。

最後になりましたが応援團を理解して下さり温かく見守って下さった諸先生方、多くの伝統と素晴らしい東高をつくり上げて下さった数多くの先輩方へ現応援團を代表してお礼をのべて終わりたいと思います。 押忍

福島県立福島東高等学校
第二十四代團長 永岡亮太

合唱部

「人数制限がない、全員がレギュラーになれる」

それが合唱のよいところですが、同時に私たちの一番の悩みでもありました。安心してしまい、自分を追いこんだ厳しい練習ができない。この状況で個人の意識を統一するのは難しいことでした。

大会が近づくとつれづれ危機感を覚えた三年生は、何度も話し合い、一年生に自分たちの東北大会に対する思いを伝えました。すると彼らもそれに応えるように、一、二年生だけで話し合いを重ねてくれました。その中で思いがぶつかったりすれ違ったりと、つらいこともありました。が徐々に気持ちは一つになつていったのです。そして本番前日のリハーサル、私は初めて自分たちの演奏に鳥

肌がたちました。練習したから「ど」が成長したわけではありませんが、それは明らかに責任のなすりつけがなくなり、私たちの「心」が成長した歌でした。

本番こそ力を出しきれず東北大会に届かなかったものの、誰が責任を押しつけ合ったでしょうか。それぞれのミスも私たちの欠点だった。消極的なミスではなく、責任を果たさずとした結果の「積極的なミス」だった気がします。

負けた瞬間は悔しい思いしかありませんでした。引退して数か月たった今、あの大きなステージで仲間と互いを支え合い歌えたことは、私の誇りです。ふと、目をつむると聴こえてくる思い出の曲たちは、これから受験と戦う三年生、そして新体制で部活を運営する一、二年生を強く励ましてくれることでしょう。

(小野 真央里)

吹奏楽部

今、部活のことを振り返ると、毎日が部活一色だった。吹奏楽部は、常に、大会や定演の練習準備に追われ、年中無休で活動してきた。つらくて辞めたいなるときもあった。しかし、いつもそばには仲間がいて、励まし合った。吹奏楽部の部員数は校内一で、個性が強く、一緒にいると楽しかった。そんな環境で部活ができたこと、幸せだったなあとと思う。

ささいなことだが、何度も仲間を助けられた。意見の食い違いなどで仲が悪くなるときもあった。しかしこれは、より親密になる第一歩だったのかも知れない。私はつらいときも一緒に励まし合い、乗り越えてきたこの「仲間」は、一生の「友」になると思う。私はこの「仲間」を大切に生きていきたい。(佐藤 万理恵)

ハンドボール部

福島東高校二十六年生として入学し、自分は中学から続けているハンドボール部に入部した。当時、入部したばかりで、緊張していたが、チームメイトは皆個性豊かな人ばかりで、毎日の練習が本心に楽しく感じた。プレーだけでなく、練習後に自主練習をしたり、皆で寄り道をした帰り道も、チームワークを築く上で大切なことだったと思える。大会では胸を張れる成績を修めることができた。特に印象的な試合が二つあり特に忘れられないのが、インターハイ予選の県大会決勝。東高校三年生の全員が応援にかけつけ、完璧東のホームとなり、選手・応援共に一丸となつて戦った。相手は今回十九連覇を狙う学法石川高校。両者一歩も引かない攻防。後半五点差まで離されるが、自分らは諦めなかった。諦めたら負けると思ったから。残りわずかでも同点まで追いつき、ラスト四十秒…逆転!必死にディフェンスをし、逃げ切り、逆転優勝。おそらくあの応援がなかったら負けいただろう。この試合は、応援あってこそその勝利だった。そして、念願の夢であったインターハイ出場。佐賀県で開催された。佐賀は沖繩の修学旅行を思い出させるほど暑かった。インターハイ初陣の自分らはスタートで四連続失点した。攻守ともに手堅い小林工業(宮崎)にペー入を掴まれた。充実した小林工業の前に突破口を見いだせなかったが、最後まで諦めずに戦って、最終的に四十対十六と大敗して、全国の強さに圧倒された。悔しかったが、最後までそのフィロドに立てたことを誇りに感じた。自分らは引退し、次は後輩たち

が主役となつて練習する。後輩達へ、今、大好きなハンドボールを思いっきりやれ。その幸せをかみしめて、思いっきりハンドボールを楽しんでほしい。結果が残せない時もある。でも、お前らの目標である夢を諦めるな!迷わず、自分の、仲間の力を信じて。どんな状況でも逃げずに戦え。信じれば必ず実現する。諦めなければ、夢は必ず、実現する。頑張れ!応援してるから。最後に、自分にハンドボールがやりたかっただけだった。でも福島東に入って、多くの人に支えられ、応援され、みんなと出会うことができた。福島東に来て良かった。何度か、挫折しようと思った。でも諦めなくて良かった。諦めたら今の自分はいなかったから。改めて仲間の大切さを知った。みんなには感謝しきれない。他のチームも含め、みんなとハンドボールができたこと、出会えたことを誇りに思う。ありがとう。(関口 秀)

ソフトボール部

部活を卒業して数ヶ月が経つた今、部活していた期間のことを振り返ってみると、とても充実した時間を過ごすことができていたなと思います。

卒業してからも練習を見に来てくれる先輩方、グラウンドの管理をしてくれる大久保さんとその弟子の人、森先生、二階堂先生、たくさんの人に支えられ、ソフトボール部は活動することができました。

ソフトボール部に入つて学んだことをこれからの生活に生かしていきたいと思います。(舟山貴之)

ハンドボール部観戦記

平成十九年六月四日月曜日、この日は福島東高校にとって特別な一日となった。それはハンドボール部が常勝学法石川高校を高校総体福島県大会で破り、創部以来の念願の初優勝を果たしたからである。そして、野球部やサッカー部以外の部活動を全員で応援するという本校始まって以来、恐らくは初めての出来事があったからである。

私は現在三年生の担任を受け持っている。私自身、本校の卒業生であり、素晴らしい先輩たちと日々幸せな時間を過ごしている。

本校にハンドボール部が創部されたのは創立四年目、初代キャプテンである二期生の相川君や阿部君、吉田君などの信夫出身者が中心となって学校、生徒会を動かし、彼らが三年生になったときによつやく部としての活動が認められたという記憶がある(不正確だったら誠に申し訳ありません)。当時は通称グリーンベルトといわれた雑草地がグラウンドの三分の一を占めており、その端っこわずかなスペースが活動場所だったように思う。私は剣道部に所属していたのだが、格技場の窓のわずかな隙間から、この劣悪な環境の中で練習、い

や石拾いをする友人たちを感心して見ていたものだ。

時が経ち、四年前に教員として本校に戻ってきた。ハンドボール部の練習場所は野球部の左中間に位置するグラウンドのど真ん中。硬式のボールがぶつからないのだからかと心配したくなるような場所でも、創部当時と比べて練習環境はさほど改善されているようには思えなかった。ただ、石拾いをするのが無くなっていた。が。さて、県内の強豪校へと成長を遂げていたハンドボール部だが、その前に立ちはだかっていたのが字石。その壁を破ることができずに準優勝が続いていた。そしてついに、二十六期生の代に新人戦、春季選抜と字石を破って初優勝を果たしたのである。しかし、全国大会(選抜)がかかった代表決定戦では字石に負けた。石川町で行われたこの試合、字石の選手たちは、勝負強く、自分たちは大事な一戦では必ず勝つんだという自信にあふれており、高校総体で字石を破ることは難しいのではないかと思わせる内容だった。

そして、ついに高校総体決勝の日。会場は福島市国体記念体育館。三年生は当日の公欠者などを除く全員でハンドボール部を

応援した。

本校の応援というと、サッカー部が三年連続で全国選手権大会に出場した時のことを思い出す。二年間はテレビ観戦、三年目は顧問としてベンチからこの応援を見た。「東」の勝利を信じて全員が揺れていた。日本テレビのアナウンサーが「日本一の応援」と評したのも当然だった。当時のサッカー部監督である齊藤勝先生は、全国で「東」といえば、東福岡や清水東、藤枝東のことではなく、「福島東」のことだ、が口くせだった。「東」の応援はすごい、といったら間違いなく「福島東」のことだった。今回はどんな応援になるのか。正直、不安であった。

選手紹介では、一人一人がそれぞれ個性的なパフォーマンス。なかには「リラの縫いぐるみを持って登場した佐藤雄哉もいた。いよいよ試合開始。前半は「東」が流れをつかみ、終始リードを保つ。左手首を骨折しているエース赤間が決める、関口の相手を攪乱するトリッキーな動き、司令塔吉原の華麗なプレー、阿部、島貴、羽田の動きもいい。キーパー渡辺大智の雄叫びに応援も盛り上がった。しかし、字石も離れそうに離れない。すると、徐々に字石がペースをつかみ、次第に追い上げられる。そして、ついに

前半の終了間際に連続得点を許し、逆転されてしまったのだ。

さて、サッカー部や野球部を中心にハーフタイムの間休むことなく続けられたパフォーマンスの数々は素晴らしかった。仲間を鼓舞し、相手を圧倒していた。スタンドが揺れる「東」の伝統の応援だった。

後半開始。前半終盤の字石の流れが続く。じりじりと聞く得点差、最大五点にまで広がった。やはり、字石は試合巧者、強い、応援する私たちにそんな雰囲気の流れはしめた。しかし、選手たちは諦めてはいなかった。ここから逆襲が始まったのである。「東」が追いかける。逃げる字石。応援のボルテージも一段と上がった。終り一分前、ついに同点。そして、残り三十秒、ゴール前を転々とするルースボールをキャプテン関口が押し込み、ついに逆転。最後は相手にシュートを打たせることなく、「東」が勝利を手にしたのだ。

その瞬間、会場はすごかった。喜びを爆発させた部員、喜び踊りあがる応援の生徒たち、みんなが勝利を称え、泣き、肩を抱きあった。部員が歓喜の輪をつくる。胸上げが始まった。最初は「エンツヨ」こと遠藤剛先生。「エンツヨ」の巨体が宙を舞った。「エンツヨ」も泣いていた。渡辺幹男先生が、そして植田久美子

先生が、つぎつぎと胸上げが続く。どの顔もはじけんばかりの笑いがあふれている。閉会式の講評のなかで、この試合は「近年まれに見る好勝負」と高い評価を受けた。

帰り道、応援した生徒の顔には充実感、満足感で一杯だった。みんな試合の内容を興奮しながら口々に話していた。まるで憧れのスター選手の活躍を語るように。そのなかには、仕事を休まれて来場された尾形会長の姿があり、とても感激した。

教員をしていると身体が震えるほど感激することが時折あるがこの日の感激はひとしおであった。ハンドボール部が十八連覇中の字石を奇跡の逆転劇でやぶったことが感激だったことは当然として、応援する生徒の姿には本当に心が打たれた。試合前の心配は杞憂に過ぎず、「東」の伝統が受け継がれていることに感激したのだ。

後日談になりますが、ハンドボール部のOB・OGから全国大会出場にあたってたくさんのご寄付をいただきました。なかには、わざわざ寄付をもって来校され、卒業以来二十年以上ぶりに校舎に入りましたというOBもおられました。これもまた感激です。

(今野充宏)

平成19年度在校生支援事業

1. 運動部支援 (83万円)

- ・ウェット器材整備 83万円

2. 文化部支援 (17万円)

- ・吹奏楽部 定期演奏会支援 (5万円)
- ・合唱部 定期演奏会支援 (5万円)
- ・美術部 「桜美展」支援 (3万円)
- ・演劇部 自主公演会支援 (2万円)
- ・ダンス同好会 発表会支援 (2万円)

3. 全国大会出場(平成19年度佐賀インターハイ)への激励金について

- ① ハンドボール部(男子) 登録数14名×3万円=42万円
*第1回理事会で8万円までの追加支援を同窓会長の判断で行うことが了承されました。最終的に8万円の追加支援を行い、総額50万円を支出しました。
- ② 男子テニス部(団体) 登録数5名×3万円=15万円
- ③ 陸上競技部
(男子4×100Mリレー・女子走り高跳び) 7名×2万円=14万円

○全国大会等への出場に際しては、同窓会から以下の激励金を支給する。

- ①団体種目 50万円 ②個人種目 1人につき2万円 ③文化部 3万円

☆全国大会への激励金の支給にともなう規定の変更について (要点のみ)

- (従来) 運動部が全国大会(国体は除く)に出場する場合、年度1回に限り、激励金の支給を行う。支給金額は団体種目が50万円、個人種目が1人2万円。
- (改正) 団体種目に関しては、50万円を上限とし、登録数(マネージャーも含む)×3万円を支給する。個人種目は1人2万円。

○各部のOB・OGから寄付が多数寄せられました。

今回の高校総体出場に際して、ハンドボール部、テニス部のOB、OGが中心となって募金活動が行われ、多額の激励金が各部に贈呈されました。また、日頃から後輩達の支援を行っている陸上競技部のOB会からも激励金が渡されました。各部のOB、OGの皆様にご心より感謝申し上げます。

贈呈式の報告

七月十九日に、第一学期終業式の後に、尾形会長にご出席いただき、全国大会へ出場する部活動への激励金の贈呈式を行いました。最初に会長から全在校生に対し、「君たちの活躍を同窓生一同心から喜んでい。今後とも文武両道の実現を目指してがんばって欲しい」という言葉がかけられた。次に、三つの部活動

に対し、「全国大会では悔いの残らないよう全力でプレーしてくることを期待する」との激励の言葉があった。最後に、会長から各部長へ激励金が手渡され贈呈式を終えた。



平成19年度 全国高校総体(佐賀インターハイ)の結果

○陸上競技部

- ・女子走り高跳び
北村あゆみ 記録なし
- ・男子4×100Mリレー
猪狩祐太郎、斎藤宏紀、丹治啓太、山田修平 予選落ち

○ハンドボール部

- 1回戦
福島東 16 - 40 小林工 (宮崎)

○男子テニス部(団体)

- 1回戦
福島東 0 - 3 太田 (群馬)

部活動訪問

女子テニス部

昨春秋、東高の歴史にうれしい一ページが新たに加わった。女子球技の団体種目で初めて、女子テニス部が県制覇を達成したのだ。さらに、東北大会において予選リーグを1位で突破し、ベスト8への進出を果たした。快挙である。大会前、八巻章監督は県大会での優勝の可能性が高いことを予言していた。シングル・ダブルスの三戦で競う高校総体とは違い、五戦で競う新人戦は、絶対的なエースに頼らず総合力で戦う本校にとって優位であるということが理由であった。

テニス競技は、クラブチームの出身者が県上位にランキングされることが多い。本校の場合、クラブ出身者は少なく、中学校ではソフトテニス部に所属していた生徒が多い。八巻先生によるとソフトテニスの癖を矯正するのが大変だという。また、大所帯のテニス部のコートは男女あわせて三面しかない。決して恵まれた練習環境ではない。さて、高校総体県大会を直前に控えた五月のある日、テニス部を訪ねた。試合前のいい緊張感がある練習風景だった。ボールを追う機敏な動き、八巻先生の指示に俊敏に対応する部員たち。鈴木美怜キャプテンに大会への抱負を聞いた。「東北地区大会では思うような結果を残すことができず、大変に悔いが残った。その悔しさを県大会へぶつけて、初優勝を飾りたい。地区大会で引退した部員たちのためにも頑張りたい。そして、この大会を自分の引退試合には絶対にしない!」と強い意気込みを語ってくれた。

結果は残念ながら、優勝した郡山高に準々決勝で敗退してしまっただが、他校から挑戦を受ける立場であるというプレッシャーに負けずに戦った部員たちは立派だった。

旧職員あいな

根本 郁生

東高に赴任したのは、七期生が入学した年、それから二十一年間、教諭として十二年、退職後九年間講師としてお世話になりました。

創立十周年記念式典の時には

進行役をしましたが、生徒達の力強い群唱による誓いの言葉が印象に残っています。二十周年記念式典では、作詞も作曲も卒業生の手による青春歌、「遙かな未来へ」が発表され、感銘を受けました。

部活動は、ずっと野球部の担当でしたが、合宿や遠征、数々の大会で、充実した活動を経験させて頂きました。特に、夏の

平成19年度 転出者

職名	氏名	転出先	教科
教諭	村越 宗平	退職	理科
教諭	根本 幸夫	安積	英語
教諭	太田 隆明	教育センター	美術
教諭	高橋 賢	宮城県教育研修センター	数学
常勤講師	齋藤 孝興	退職	理科
常勤講師	鈴木 知洋	退職	公民
常勤講師	伊澤 壽昭	退職	理科
常勤講師	円谷智恵子	退職	数学
養護助教諭	柴崎 華奈	退職	
非常勤講師	根本 郁生	退職	英語
主査	新井田 馨	情報統計領域	
非常勤用務員	坂内 弘	退職	

平成19年度 転入者

職名	氏名	前勤務先	教科
教諭	清水 嘉之	田村高校	理科
教諭	千葉 聡	福島商業高校	英語
教諭	片平 仁	教育センター	美術
教諭	中村 達哉	北信中学校	数学
教諭	佐藤 伸郎	梁川高校	理科
教諭	藤田 敏夫	安達高校	公民
常勤講師	瀬戸裕一郎	新任	地歴
常勤講師	根本 哲寿	新任	数学
養護助教諭	木滑 澄枝	新任	
主査	伊藤八重子	保健福祉部 健務 福領 任	
非常勤用務員	丸山 富司	新任	

平成19年度 教育実習生 (同窓生のみ)

氏名	実習教科	実習クラス
橋谷田 理 恵	英語	1-5
紺野 香	英語	1-6
松本 真実	英語	2-2
桑原 裕美	家庭	1-7
井間 千紘	家庭	1-2
齋藤 厚徳	保健体育	1-1
菅野 真奈美	音楽	2-3
竹内 大崇	日本史	2-1
吉田 真直	日本史	2-5
丹治 祐介	現代社会	1-3
山口 侑也	情報	2-4
管 えりか	家庭	1-8

大会で、ベスト四に入り、全校応援をもらった時の感動は、忘れられません。次は、甲子園でこの感動を味わいたいものです。

文武両道をモットーに、東高が益々活動を充実させ、その名を高めてゆくことを心から祈念しています。ありがとうございました。

柴崎 華奈

福島東高校で過ごした三年間は本当に楽しく、充実した日々を過ごさせていただきました。

自分の夢である養護教諭の道の第一歩を福島東高校で経験できたことを大変誇りに思っています。素晴らしい生徒達や先生方との出会いは、私にとって大きな財産となりました。

東高生のみならず、そのキラキラと輝く笑顔をお忘れず、目標に

教育実習生

教育実習を終えて

井間 千紘

今回、私は五月二十六日、六月十五日までの三週間、母校である東高で教育実習をさせていただきました。

実習初日は緊張と不安でいっぱいだったものの、生徒や先生方に暖かく迎えられる環境の中で過ごしてゆくにつれて次第にその緊張と不安がなくなり、楽しさに変わっていったのを覚えています。今までは生徒の立場でしか物事を見ておりませんでした。教師の立場に立つて改めて物事

向かって頑張ってください!! 三年間ありがとうございました。

を見てみると、今までお世話になっていた先生方の気持ちがよく分かり、考えさせられる事も多かったです。一日一日がとも内容の濃いもので、本当に考え方が変わるくらい多くの価値あることを学ばせていただきました。

充実した日々を過ごしていると三週間はとも早く過ぎてしまうもので、あっとい間に最終日となり、生徒達ともお別れとなりました。配属クラスの生徒達とは本当に仲良くさせていただきましたので、最後の帰りのHRでは淋しさや名残惜しさが込み上げ、涙しそうになったものの、生徒達の前では泣く姿を見せまいと必死に堪えながらのお別れとなりました。その際に生徒達からいただいた色紙や手紙は一生の宝物です。

大変だと感じることもありま

同窓会役員

- 【会長】 尾形幸男 (1期)
- 【副会長】 橋内重康 (1期)
- 金子與志人 (3期)、手塚健一 (5期)、甚野直美 (16期)
- 【監事】 片桐秀樹 (1期)、蒲倉達也 (3期)、鈴木勇人 (9期)

二十五期生役員

- 【理事】 高原隼人 (3期)、山形俊介 (8期)
- 【幹事】 大沼美保 (1組)、齋藤智也 (1組)、後河内麻央 (2組)、遊佐直洋 (2組)、高原隼人 (3組)、村井悠希 (3組)、佐藤はるか (4組)、矢内龍之介 (4組)、中村有沙 (5組)、三村知子 (5組)、作間絵梨子 (6組)、渡辺優 (6組)、金子卓也 (7組)、渡邊康英 (7組)、安齋祐紀 (8組)、山形俊介 (8組)

したが、この三週間は私をとても成長させてくれました。ここで学んだ多くの事は将来絶対生きてくると思います。この経験を無駄にしないよう、これからも頑張っていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

同窓生訪問



今年の夏の高校野球
福島県大会
第三シード
の光南高校

を10で破ってベスト16に出して注目をあびた福島北高の酒井祐治監督は本校の二期生。高校時代はエースとして活躍し、磐城高、会津高を撃破し、東高に初の夏二勝をもたらしたヒーローである。浪江高、保原高を経て福島北高で五年目を迎えた商業科の先生でもある酒井さんに色々とお話を伺った。

今年の夏の活躍、おめでとございます。

ありがとうございます。でもあれは生徒ががんばったことですから。

前年度の甲子園出場校である強豪校を破った勝因は何ですか。

私を含めた野球部全体の意識の変化だと思っています。今年の三月、私は中国・四国地方の強豪校へ視察に行きました。そこで広島商の監督さんに「本気で甲子園制覇を考え、三年間練習に打ち込めるかどうかが大切だ」ということを教わりました。私はそれまで、部員に口では「甲子園

を目指そう」と言っていました。正直いうと本心では「無理」という気持ちがありました。私はまず部員にこのことを謝りました。そして一緒に本気で甲子園制覇を目指そうと言ったんです。その日から部全体の雰囲気が変わりました。

教員になった理由を教えてください。

私は小さい子どもが好きで高校時代は保父さんになりました。校時代は認められていなかった。だから小学校教員を目指して某国立大学の教育学部を受けたんですが、見事玉砕。結局、駒澤大学経済学部へ進学し、中学校社会の教員採用試験を受けました。が、またも玉砕。そこへ、某私立高の商業科の講師を一年限定でやらないかと声をかけていただき、ここで高校の商業を教えることに魅力を感じ、翌年幸運にも教員採用試験に合格したのです。

教員という職業で充実感を感じるのどんな時ですか。

生徒が変わったときです。最近のことですが、今の高校生は校歌を普段の集会ではほとんど歌わない、それが今夏の野球の試合を応援してくれた生徒たちが、声をからし、涙を流しながら歌ってくれたんです。高校生は本気になれば変わるんです。

高校生活はどんな様子でしたか。

野球一筋です。高校三年の時の日課。四時三十分起床。五時に桑折町の実家を自転車で出発。五時四十分東高到着。七時から八時で英語の勉強。七時から八時二十分まで朝練。放課後はもちろん部活で、自主練が終わるのは夜の九時、夜十時頃に自転車で帰宅。こっぴつ毎日でした。高校時代の一番の思い出は何ですか。

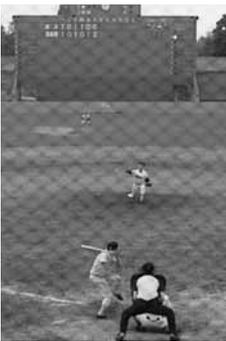
三年の時の夏の大会で、監督の母校である磐城高校を破って東高初勝利を監督にプレゼンしたことです。櫻井監督はともきびしい方でしたが、ベンチに帰ったときに初めて握手を求められました。

ご自分の高校野球の思い出を教えてください。

三年五月の米沢興譲館高との練習試合。52の東高リードで迎えた最終回2死ランイチ無し。



高校時代の酒井さん



ここから四球、四球、死球で満塁。次の打者にレフト前に運ばれ2点差。なおも2死満塁。カウント23。ここで捕手の相馬はインコースを要求。しかし、弱気な私は内角へ投げきれずに、ボールはすうつと真ん中へ。打たれた瞬間、ボールはフェンスを越え、民家の二階へと消えていきました。あとは、六月の県北選手権の福高戦。6回1死まで50でリード。しかもパーフェクトピッチング。ここから7回コールド負けになるまでメツタ打ちにあったこと。打たれたことしか思い出せません。

母校である東高と対戦するときの気持ちはどうですか。
絶対に負けない。母校への恩返しは負けないことだと思っています。でもまだまだ勝てませんが(苦笑)。

恩師である櫻井先生が監督をしている安達高との試合はやりこくありませんか。
櫻井野球は私の理想であり目標です。そのため、作戦面とか目指す野球が同じなのでやりにくい面があります。しかし、恩返しのために優勝するために全力でぶつかっていきます。将来、夏の県大会の決勝で櫻井監督と戦うのが私の夢なんです。同期の相馬伸介(郡山商)、渡辺真也(清陵情報)も同じ夢を持つ

て戦っています。
今の東高生の印象はどうですか。

女子のパワーに男子が負けているという印象があります。男子生徒はスマートになりすぎている。もっと泥臭く、何事にも挑戦する気持ちを忘れないで欲しい。後輩たちにメッセージをお願いします。

君たちががんばっていることはものすごく伝わってくる。これにもっと覇気が感じられるようになると、君たちはもっともっとう伸びる！
最後に、同窓生に一言をお願いします。

私は近くで東高を見ています。後輩たちは本気で頑張っています。私たち同窓生もバックアップ体制を強化してサポートしていきます。



北高野球部と酒井さん

さまざまな職業人に聞く

「生徒に社会で活躍されている方と対話をさせたい」という趣旨で始まったこの企画も平成十九年度で四回目を迎えました。毎回、多数の同窓生に講師としてお招きしていますが、平成十八年度に講師を務めていただいた三名の方の感想を掲載します。

なお、平成十九年度の講師（同窓生のみ）は次の方々です。
大内治さん（一期）、片桐秀樹さん（一期）、橋内重康さん（二期）、金子與志人さん（三期）、川上敦さん（三期）、古川雄二さん（三期）、菅野与彦さん（五期）、手塚健一さん（五期）、古川篤さん（九期）、中村京一さん（十期）、遠藤淳弘さん（十一期）、角田正樹さん（十一期）。

同窓会では講師を募集していません。自薦他薦をお願いします。また、講師依頼の過程で様々な方にご迷惑をお掛けしますが、これも母校のためとお許しいただければ幸いです。

* * * * *

堀江 孝晴(三期生)

三期生の堀江と申します。卒業後歯科技工士の専門学校で四年

間勉強し、免許を取得しました。東京で四年、埼玉で二年働き、三十歳で福島に戻りました。三十三歳で独立し、現在に至ります。

昨年末、私も遂に四十歳になりました。子供や家庭の為に、常に安定を望むようになった気がしますが、冒険心が無くなったのは、寂しい限りです。振り返る事も多くなりました。数年前「今の自分がベスト!」と思っても、後になって、自分の未熟さを感じる物です。時間の経過と様々な経験で、知らず知らずのうちに、精神的、人間的に変化していくようです。

今回、学生の皆さんの前で話す機会を頂き、貴重な体験が出来ました。普段、多くの人前で話す事は、まず無いですから。

最近、一週間、一ヶ月が短く感じます。五十歳もすぐ来そうです。色々な経験を通し、一回りも二回りも、人間的に大きな自分になりたいですね。そして、学生の皆さんも、無限に広がるこれからの人生を、自分でデザインして下さい。

最後に、健康、若さの為に、

歯を大切にして下さい。自分の歯が一番ですよ!

山岸 竜大(七期生)

宴席で、一期生の先輩に「様々な職業人に聞く」の講師依頼を受け、アルコールの力もありあっさりとしてしまった気がする。ただ、受けた瞬間から自分の業界の話でなく福島で商売をする「企業人」としての気概・物事の捉え方に関して話をしようとした。実際は自社の新入社教育資料をベースに話をさせて頂いた。仕事は工業向けをメインにしたパッケージの設計・製造・販売を手掛けており、キヤノン・ソニー・松下グループ等々と取引をさせて頂いている。設計力、品質、環境配慮と国際的な企業と取引をさせて頂くと要求は高く細部に渡る。しかし、結局は行動力と営業力(人)なのです。

弊社は「全社員営業精神」を掲げていますが、挑戦する行動力、人と人との関りが最も重要なポイントなのです。今回の講義では顧客満足に関するものと、人間のタイプに関する二つの設問を通してどのような視点で人付き合い、行動をすれば成果を生めるかの話をさせて頂きました。仕事だけでなく在校生が携わる部活動・交友関係のヒントになっ

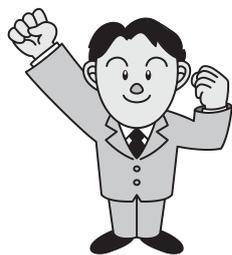
ていけば幸いです。また、英語の大切さと海外に飛び出す行動力をお願いしました。弊社は、福島の零細企業としては稀な存在で中国に進出し、現在はベトナムへの進出を検討しています。が、世界を見据えなければ到底生きてはいけません。奥ゆかしいことに、講義が終わった後に幾人から質問があり、ある生徒から先生の話は「千円札は捨つな」という本屋で見た本と共通点があると声を掛けられました。その後、直ぐに本屋で購入・読破し、翌週の会社の朝礼で使わせてもらいました。講座の思い出となる良い「スパイス」を頂きました。有難うございました。在校生には自分もそうでしたが真剣に聞いている雰囲気が無かったり、寝ていたとしても、終わりに際に鋭い意見を放つ・異彩を放つ「キレ」のある東高生であって欲しいと願うし、我々OBも斯くあるべく実社会で挑戦を続けて参りたいと思います。

須藤 祐樹(十一期生)

現在、福島県職員として建築に関する業務をしているため、一昨年に県立高校体育館の改修工事の現地調査で、卒業以来初めて母校を訪れました。三年間汗を流した柔道部の部室を覗き

ますと、当時と変わらぬ場所があり、三年生当時の団体戦の表彰状がまだ飾られていることをみて、大変懐かしく思い、これまで一度も顔を出さなかったことを悔やみましたが、いまだはもう「柔道で後輩の指導はできないなあ」と思っていました。

そこに、昨年「さまざまな職業人に聞く」の講師のお話をいただき、在校生の皆様とお話しする機会を得ました。広く建設関係に関する仕事の話をしていただき、意図したことをどのくらい伝えられたかはわかりませんが、卒業生として少しご恩返しのできたかなと思いました。そして何より、私自身が、久しぶりの教室で数時間を過ごし、在校生や他の講師の皆様とお話することができたことで、母校との繋がりを感ずることができ、大変嬉しく思いました。ありがとうございました。



同窓会名簿の整備について

創立30周年を前に、同窓会名簿の整備に取り組みます(刊行の予定はありません)。方法は以下の通りです。

東桜会、現職の先生方に情報の提供を呼びかける。(東桜会とは先生方のOB・OG会です。)

同窓会会報を通じて情報の提供を呼びかける。

手順1：不明者一覧を送付(東桜会・同窓生)する。
 手順2：返送用のハガキには、目隠しシールを用意する。
 手順3：不明者の情報が寄せられた場合、不明者に同窓会名簿に記載して良いか否かを確認する(会報を発送する)。

手順4：同意が得られたら、同窓会名簿に記載する。

同窓会会員(1~25期) 8,871名

会報発送会員	7,364名	不明会員	1,378名
物故会員	19名	その他	110名

【事務局から】

1,378名の不明者の数を減らすことが最大の目標ですが、県外発送者数が183名だけです。住所を実家のままにしている同窓生が多数いることが推測できます。住所が変更の可能性が高い場合は実家のままでも結構ですが、ぜひ、現在の住所をお知らせ下さい。専門の名簿業者に頼ることなく、同窓会の皆様のご協力でどこまでやれるかやってみようとして事務局では考えています。なお、この方法は、個人情報の取り扱いについての有資格者から指導を受けております。

同窓会総会のお知らせ

期 日：平成19年12月2日(日)
 時 間：午後4時から
 (終了後に懇親会を予定しております)

場 所：ウェディングエルティ
 福島市野田町1丁目10-41
 TEL 024-535-6188

主な議題：在校生支援事業について
 創立三十周年記念事業について

懇親会費用：5,000円

※なお、総会終了後に本校合唱部による小コンサートを予定しております。

※出欠は同封のハガキにてお知らせ下さい。

事務局より

○「同窓生の個人情報の提供について」

クラス会・部活動会等を開催するにあたって、個人情報(住所のみ)の提供の要請があった場合は以下の手順で対応する。

【手順】

ア 電話による問い合わせには一切応じない。

イ 申請者(二名以上)に来校してもらおう(事前に事務局と日程調整)。

ウ 事務局は二名以上で対応する。

エ 申請者(二名以上)に本人確認の質問を行う。

オ 申請者(二名以上)の本人確認を行う。

・免許証など身分確認を行うことができるものの提示を求める。

カ 個人情報提供申請書(事務局で準備)に必要事項を記入してもらおう。

・申請者は印鑑が必要(拇印可)。

キ 上記の手続きを経て、目的が明確であり、問題がないと判断した場合、個人情報(住所のみ)の提供を行う。

ク 申請者(二名以上)名と使用目的、情報提供内容を会報で報告する。

題字について

今号から会報名を「同窓会会報」としました。また、題字は本校の開設準備局長その後、教諭、校長として本校発展にご尽力いただいた三浦賢一先生にお願いしました。

三浦先生の発案で始まった東櫻賞の受賞者に副賞として贈られる広辞苑は、今でも三浦先生から届けられているものです。

編集後記

高校を卒業する時には、まさか自分がこのような立場で母校に戻るとは、夢にも思わなかった。あれから十九年。常に新しい伝統を作りながら進化している本校の姿に感心させられている。その中で、「あの頃」と変わらないものが二つ。一つは放課後の部活動の様子を気にしながらも学習に打ち込む三年生の姿。もう一つは昼休みにかけるパンの美味しさ。販売に来る店員さんに話を聞いたら、味と値段は昔と変わっていないとのこと。時代が変わり、ものの考え方が変わっても、近い目標、遠い目標に向かって純粋に努力する東高校の生徒。その姿を気にしながら、今日もパンを買いに行く。傍らの生徒に「先生、甘いものはひかえるよう、純粋に努力しなければ。」(中村達哉)

今年こそ十月一日に発送するぞと公言しながら、発行が遅れてしまい、各方面、特にエルティさんには多大な迷惑をお掛けしました。第五号こそは、絶対に「これ以上言うのはやめになります。」(今野充宏)